

平成 29 年 6 月 22 日

各位

株式会社 富山第一銀行

格付据え置きのお知らせ

株式会社富山第一銀行(頭取 横田格)は、このたび株式会社日本格付研究所(JCR)より、以下のとおり格付を据え置く旨の通知を受けましたのでお知らせいたします。

1. 格付機関 : 株式会社日本格付研究所(JCR)
2. 格付 : 『**A**』(シングルAフラット)
3. 格付の見通し: 『安定的』
4. 格付の対象 : 長期発行体格付
5. 格付の主な評価理由
 - (1) 富山市に本店を置く資金量約 1.1 兆円の第二地方銀行。格付は、地元金融マーケットにおける安定したプレゼンス、健全性の高い貸出資産の質や良好な資本の充実度などを反映している。ただ、有価証券運用においてリスク量が多いほか、収益力が低下しており従来の優位性が薄れている。有価証券にかかるリスクを適切にコントロールしつつ、収益力の低下に歯止めをかけられるか注目している。
 - (2) 従来、有価証券運用で積極的なリスクテイクを行うことでコア業務純益を維持してきたが、近年は貸出金利回りの低下幅の拡大や経費の増加などを背景に、収益は減少している。また、有価証券利息配当金における投信解約益の収益貢献が拡大しており、17/3 期は、投信解約益を控除したコア業務純益の減少が比較的大きい。投信解約益を除いた ROA(コア業務純益ベース)も 0.3%弱と地銀平均程度の水準は確保しているものの、15/3 期までの 0.5%台に比べ低下している。低金利環境を背景に、収益力は今後も弱含んで推移していくとみられる。
 - (3) 金融再生法開示債権比率は 17 年 3 月末で 1.18%と低い上、総与信に占めるその他要注意先債権の残高が少なく、分類率も抑制されている。大口の不良債権が少ないことや、要管理先や破綻懸念先に区分される与信先に対しては DCF 法に基づく保守的な引当が行われていることなどから、今後も与信費用が連続して多額となるリスクは小さいとみている。
 - (4) 有価証券運用においては、近年、株式や投資信託、外貨建て債券を中心に残高を早いペースで増やしている。株式や投資信託の残高が 4 割超を占め、資本対比でみた価格変動リスクは大きい。17/3 期は有価証券関連損益全体では利益を確保しているものの、比較的多額の債券及び株式等の売却損を計上している。今後も投資信託や外貨建て債券を増やしていく方針であることから、市況の変化が評価損益や収益などへ及ぼす影響を引続き注視していく。
 - (5) 連結コア資本比率は 17 年 3 月末 12.54%、貸倒引当金などを除いた調整後でも 12%台と、資本の充実度は高い。有価証券にかかるリスクを十分に吸収可能な水準であり、リスクアセット対比で良好な資本水準を維持していけるとみている。
6. 格付の据え置きについて
今回の格付の据え置きは、当行の堅実経営と透明性が適正に評価されたものと考えております。当行では、この事に満足することなく、更に上位の格付の取得を目指し、引き続き地域金融機関として地域の皆様の多様なニーズにお応えできるよう堅実な経営に努力していきます。

本件に関するお問い合わせ先
総合企画部 三鍋
電話 076-424-1219